

■ はじめに

キヤノンマーケティングジャパン製品をご愛顧いただき誠にありがとうございます。
このリリースノートには、ESET PROTECT on-prem V13.0（以降、本製品と記載します）を正しくご利用頂くための情報が記載されています。
本製品をインストールする前に必ずお読みください。

■ 本製品のコンポーネント

本製品を利用頂くためには、以下のコンポーネントをインストールする必要があります

- ・ ESET PROTECT Server
- ・ ESET PROTECT Web Console
- ・ ESET Management Agent

次のサポートコンポーネントは必要に応じてインストールしてください。

- ・ Rogue Detection Sensor
- ・ ESET Bridge

■ 本製品で利用可能なデータベース

本製品は、以下のデータベースをサポートしています。

- ・ Microsoft SQL Server 2016
- ・ Microsoft SQL Server 2017
- ・ Microsoft SQL Server 2019
- ・ Microsoft SQL Server 2022
- ・ MySQL 8.0
- ・ MySQL 8.1
- ・ MySQL 8.4

- ・ MySQL 9

■ 本製品の ESET PROTECT Web Console で利用可能なブラウザ

本製品の ESET PROTECT Web Console は以下のブラウザをサポートしています。
Web ブラウザを常にアップデートすることを推奨します。

- ・ Microsoft Edge
- ・ Mozilla Firefox
- ・ Google Chrome
- ・ Safari
- ・ Opera

■ インストール前の注意事項

本製品をインストールする前に、以下の内容を確認してください。

- ・ 本製品のオールインワンインストーラーを保存したフォルダーのパスに日本語が含まれている場合、インストールできません。パスに日本語が含まれないフォルダーに保存して実行してください。
- ・ 本製品は、日本語を含むユーザー名のユーザーでインストールすることはできません。
- ・ 旧バージョンの ESET PROTECT から、本製品に直接アップグレードすることができます。アップグレード前に、データベース等が本製品のサポート要件を満たしていることをご確認ください。詳細については、以下をご確認ください。
https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/151?site_domain=business
- ・ 本製品の各コンポーネントをインストールするサーバーに、それぞれ以下のプログラムがインストールされている必要があります。

□ ESET PROTECT SERVER (Windows 版)

- Microsoft .NET Framework 4 ※
- 本製品で利用可能なデータベース

※ Microsoft SQL Server 2022 をインストールする場合、Microsoft .NET

Framework 4.7.2 以降が必要です。サーバーマネージャーの機能の追加よりインストールするか、Microsoft の Web ページからダウンロードしてインストールしてください。

□ ESET PROTECT SERVER (Linux 版)

□ Redhat 系 OS に必要なパッケージ名一覧

- openssl 1.0.1e-30 以上 3.x 以下 ※1
- cifs-utils
- samba ※2
- samba-winbind-clients ※2
- openldap-clients
- policycoreutils-devel ※2
- lshw
- krb5-workstation ※2
- cyrus-sasl-gssapi
- cyrus-sasl-ldap
- net-snmp-utils ※2
- net-snmp ※2
- xorg-x11-server-Xvfb (RHEL10 を除く)
- gtk3 (Rocky Linux のみ)
- nss
- atk
- at-spi2-atk
- libXcomposite
- libXdamage
- libXrandr
- libxkbcommon
- mesa-libgbm
- pango
- alsa-lib
- tar
- 日本語フォント(任意の Linux 用日本語フォント)
- 本製品で利用可能なデータベース
- 本製品で利用可能なデータベースコネクタ ※3

□ Debian 系 OS に必要なパッケージ名一覧

- openssl 1.0.1e-30 以上 3.x 以下 ※1
- cifs-utils
- samba ※2
- ldap-utils
- libsasl2-modules-gssapi-mit
- lshw
- krb5-user ※2
- snmp ※2
- xvfb
- libnss3
- libatk1.0-0
- libatk-bridge2.0-0
- libxcomposite1
- libXdamage
- libxrandr2
- libxkbcommon0
- libgbm1
- libpango-1.0-0
- alsa-lib
- selinux-policy-dev ※2
- libasound2
- libcups2
- libcairo2
- 日本語フォント(任意の Linux 用日本語フォント)
- 本製品で利用可能なデータベース
- 本製品で利用可能なデータベースコネクタ ※3

※1 OpenSSL 3.0 以降を使用する場合は、インストール後に設定変更が必要です。

https://help.eset.com/protect_install/13.0/ja-JP/database_requirements.html?prerequisites_server_linux.html

※2 用途に応じて導入してください。詳細はオンラインヘルプをご確認ください。

https://help.eset.com/protect_install/13.0/ja-JP/database_requirements.html?prerequisites_server_linux.html

※3 利用可能なデータベースコネクタは、オンラインヘルプをご確認ください。

https://help.eset.com/protect_install/13.0/ja-

JP/database_requirements.html?database_requirements.html

□ ESET PROTECT Web Console (Windows 版)

- Java/OpenJDK 17, 21 64bit

- Apache Tomcat 9.x 64bit (最新版を推奨)

□ ESET PROTECT Web Console (Linux 版)

- Java/OpenJDK 17, 21 64bit

- Apache Tomcat 9.x 64bit (最新版を推奨)

□ Rogue Detection Sensor (Windows 版)

- WinPcap 4.1.0 以上

□ ESET Management Agent (Linux 版)

- openssl 1.0.1e-30 以上 3.x 以下

- lshw

■ 製品マニュアル

本製品のマニュアルにはオンラインヘルプとオンラインヘルプ補足資料があります。

はじめにオンラインヘルプ補足資料を確認してください。

オンラインヘルプ補足資料は「ユーザーズサイト」よりダウンロードすることが出来ます。

ユーザーズサイト

<https://canon-its.jp/product/eset/users/>

オンラインヘルプ (インストール/アップグレード/移行)

https://help.eset.com/protect_install/13.0/ja-JP/

オンラインヘルプ (管理)

https://help.eset.com/protect_admin/13.0/ja-JP/

■ 旧バージョン（V12.1.14.1）からの変更点について

以下の機能が追加されました。

□ アカウント登録の必須化

ESET PROTECT のライセンス管理画面から製品認証キーを登録する機能が廃止されたことに伴い、以降のバージョンではアカウント（ESET Business Account / ESET PROTECT Hub / ESET MSP Administrator のいずれか）の登録が必須となりました。（オフラインライセンスの登録は利用可能です）

□ 隔離されたファイルのアップロード

エンドポイントから ESET PROTECT サーバーに隔離されたファイルを安全にアップロードできるようになりました。

□ 「コマンドの実行タスク」の操作を制限

セキュリティを強化するため、2 要素認証アカウントでログイン時のみ、コマンドの実行タスクの利用が可能になりました。これにより、無許可のリモート操作のリスクが軽減されます。

□ Windows Server のダウンタイム軽減措置

ソフトウェアインストールタスクに新オプション「再起動が不要な場合にのみインストールする」が追加されました。これにより、サーバーを再起動せずに ESET 製品を更新することが可能になりました（ESET Server Security for Microsoft Windows Server V12.1 以降でサポート）。

□ RHEL10 および Debian13 のサポートを追加

RHEL10 および Debian13 に対して、ESET PROTECT サーバー/エージェントのインストールがサポートされるようになりました。

■ 使用上の注意事項

本製品を使用する前に、以下の内容を確認してください。

- 製品自動アップデート有効のポリシーが「すべて」に適用されます。
製品自動アップデートを無効にするには、製品自動アップデートを無効に設定したポリシーを作成し、適用する必要があります。
詳しい設定方法についてはオンラインヘルプ補足資料をご確認ください。
- 本製品のオールインワンインストーラーを用いてアップグレードした場合は、OSの再起動を行ってください。
- 本製品のソフトウェアインストールタスクよりプログラムをインストールする際、製品バージョンを選択すると、「法的文書に同意している最新の ESET 保護バージョンのインストールを許可します」にデフォルトでチェックが入ります。

チェックが入ることで、選択したバージョンより新しいバージョンの製品がインストールされる場合があります。ご注意ください。

- RHEL10 に本製品をインストールしてご利用の場合、レポート機能で生成したレポートを PDF 形式で出力できません。必要に応じて、CSV 形式でレポートを出力してご利用ください。
- Linux 環境にて、MariaDB ODBC ドライバーがデータベースコネクタの要件から除外されました。本製品を Linux に新規インストールする場合、データベースコネクタは MySQL ODBC ドライバーを使用してください。
既に旧バージョンが導入されている環境でデータベースコネクタに MariaDB ODBC ドライバーを使用している場合、MySQL ODBC ドライバーに切り替えることによりバージョンアップが可能です。

詳しい手順については、オンラインヘルプ補足資料をご確認ください。

https://eset-info.canon-its.jp/files/user/pdf/manual/v130_users_manual_ep.pdf

■ 既知の問題

本製品で確認されている既知の問題や制約はありません。

最新の情報につきましては弊社製品ホームページの Q&A をご確認ください。

ESET 製品 Q&A ページ：

<https://eset-info.canon-its.jp/support/>

プログラムの変更点：

https://eset-support.canon-its.jp/faq/show/2293?site_domain=business

■ 製品情報

本製品に関する情報は、以下の URL から参照することができます。

ESET 製品ページ：

<https://canon.jp/biz/solution/security/it-sec/lineup/eset>

ユーザーズサイト：

<https://canon-its.jp/product/eset/users/>

オンラインヘルプ（インストール/アップグレード/移行）

https://help.eset.com/protect_install/13.0/ja-JP/

オンラインヘルプ（管理）

https://help.eset.com/protect_admin/13.0/ja-JP/